

令和元年度学校評価（最終評価）

重点目標	・生徒一人一人の進路実現を図るため、3年間の見通しをもった学習指導を徹底するとともに、より高い自己目標を掲げた取組をさせる。 ・地域・保護者・同窓生からの期待に応えるため、広い視野と深い洞察を得られるような積極的な教育活動を展開する。 ・将来のリーダーとなる生徒集団を育てるため、生徒会活動、ホームルーム活動、部活動に積極的に参加させ、人格的な成長を図る。 ・ストレスチェックなどを有効に活用しながら、教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。			
担当	本年度の重点目標	具体的方策	留意事項	自己評価(最終評価)及び課題
総務部	・PTA活動の更なる活性化 ・業務処理の円滑化	・各種委員会(総務、進路、生活、保健)の活動内容をより掌握しやすとする。 ・PTA組織の内包する諸問題を明確化する。 ・業務マニュアルを作成し、業務内容可視化に努める。	・各種委員会での活動内容と諸問題を役員会等で確認し、担当委員と教員側り意向を擦り合わせて歩調を合わせ、事態の改善と向上を図る。 ・総務部の業務内容を可視化に努め、担当部員の意向を全体がより詳細に掌握し、一部に過度な負担が行かないよう配慮する。	・左記の「諸問題」の一つに行事への参加率の問題があるが、本年度の各行事への興味関心や参加状況は、役員の方々のご尽力もありかなり改善され向上が見られたと思われ。まず活動の意義を確認する機会を持ち、理事の自発的参加を促したい。 ・業務マニュアルと業務計画を活用しつつ、一つの業務をできるだけ複数の部員で処理していかねばならないが、同時にあまり業務の細分化に走らないように留意したい。不測の事態への速やかな処理ができるように工夫したい。
教務部	・授業改善の推進 ・業務の円滑化、効率化正確性の向上 ・教育課程編成に向けた準備	・授業公開週間の活用促進する。 ・校務支援システム運用におけるマニュアルの充実化を図る。 ・新教育課程編成に向けた情報の収集、共有する。	・主体的・対話的な深い学びをテーマにした研究授業を実施する。 ・各学年における成績処理、要録の作成手順の効率化の検討及びマニュアル化を推進する。 ・学校間、教科間における新カリキュラムの研究と情報共有を図る。	・年2回の授業公開週間は定着してきた。来年度はさらに活性化する仕組みを整えていきたい。 ・メソフィアを利用した成績処理もスムーズに運用できるようになってきた。現在旧システムの処理と混在しているため、今後成績資料の精選を行いメソフィアでのみ処理できるように工夫していきたい。 ・本校のランドデザインを作成し、教育課程編成の土台が固まった。職員全体で各教科の情報を共有することができた。他校の動向も聞きつつ教育課程の編成に着手した。来年度更に内容を詰めていきたい。
情報図書部	・情報機器の積極的な活用 ・個人情報管理の徹底 ・生徒の豊かな感性と知的好奇心を育成する図書館活動	・情報機器利用の環境整備や効果的な活用を図る。 ・個人情報保護の重要性和その取り扱いについて、共通意識を確立する。 ・読書会や図書館報を通じて、生徒の読書への興味・関心を高める。	・教員用パソコンの更新を通じて、より高度な利用方法を検討する。 ・個人情報管理・運用規程の提示や個人情報利用申告書の提出を通じ、適正な運用を図る。 ・生徒の主体性を重んじた図書委員会活動及び、図書館利用となるよう努める。	・ネットワーク更新とパソコンの整備を行い、高度な業務が可能となった。機能や運用について情報発信や伝達を積極的にに行い、さらに効果的な活用をはかりたい。情報機器の拡充を行ったが、次年度以降も整備を行い、ICT教育の推進をすすめる。 ・個人情報管理については、適切に実施されている。今後は具体的な基準についても踏み込んで検討していきたい。 ・生徒の読書意欲をたかめ、知的好奇心を育成するために、図書委員を中心として様々な働きかけをしている。さらに工夫を重ねていきたい。
生徒指導部	・生徒の生きる力の育成と、教員間の共通理解による組織力の向上 ・いじめの早期発見、適切な事案対処	・生徒一人一人の基本的な生活習慣の確立と、行事や部活動などを通じて忍耐力、協調性、仲間作りができるよう、教員間で連携を取りながら指導できる体制を整える。 ・アンケートや面談などの情報や、色々の場面や立場で生徒の情報交換を密にして、いじめに対する早期発見と早期対応をできるようにする。	・行事や部活動で生徒が活動している現場へできるだけ多くの教員が向かい、そこから得られた情報や感覚から、学年分掌と連携を取りながら、生徒に応じた指導助言できるようにする ・個人情報を守りながら、正しい情報を見極め、その情報を共有して、適切に対応できるようにする。	・他人とのコミュニケーションをとることが苦手な仲間をうまく作れない生徒が多い中、生徒の生活面、友人関係等の把握につとめ、教員間の連絡をさらに密にして、部活動や行事を通じて今度以上に教員が関わりながら丁寧な指導が必要である。 ・多種多様な価値観が認められているが、学校生活で様々な場面で生徒を指導する際「怒鳴る指導」や「言葉の暴力」のないように、不登校傾向の生徒も増える中、学校全体として同じベクトルを確認しながら、実態に応じて配慮しながらの指導が必要である。 ・情報モラルの指導を強化しながら、アンケートの重みをもたせながら、今年度に引き続き生徒の友人関係等をさらに把握し、いじめやかからかいの早期発見に努める。
生徒会	・現状に即した生徒会規約の確立 ・学校祭における経費削減、節約実施の中での工夫ある取組	・電子データを整理し、早い段階での確認を図る。 ・体育祭衣装について、金額の上限等を定め高額にならないよう工夫を図る。	・学校行事に生徒が主体的に取り組めるよう、生徒会や教員の支援、働きかけの工夫に努める。 ・多くの生徒が役割を担い、一部に負担が生じないよう連携や意思疎通を図り、学校行事が学校生活により良く反映するように努める。	・生徒会規約の「生徒会会則」、「部活動及び同窓会規約」については修正ができた。今後は、「生徒会業務規約」を見直す必要がある。 ・体育祭「舞」の衣装については、余分な個人徴収金がないように必ず予算内で収まるように検討する。場合によっては、本年度から削減した学校祭徴収金(体育祭分)を1,500円に戻すことも検討していく。
進路指導部	・3年間の見通しをもった学習指導の徹底 ・より高い自己目標を掲げた取組による進路実現	・日々の授業を中心に、補習や学習会を積極的に活用させる。 ・キャリア教育を通じて確かな社会観・人生観・職業観を育成させる。	・基礎的な知識・技能に加え、思考力、判断力、表現力を身につけさせる。 ・学校生活、進路行事、テストなどの振り返りを充実させ、成長を実感させる。	・補習の受講教員全体については前年を下回ったが、レベル別講座や週2回開講する講座など工夫して開講した。長期休業中の補習では部活動の公式戦なども重なっている生徒も多い。実情を把握し、計画していけるようにしたい。 ・キャリア教育コーディネータ活用事業において、生徒には大学と企業の結びつきや将来の職業につながる学びを体験していきたい。また、進路行事について時期や方法の再検討を行う。
保健厚生部	・教育相談の充実化 ・激甚災害初動活動マニュアルの作成および周知徹底	・教育相談に関する仕組み作りを行い、全教員が情報を共有できるように取り組む。 ・激甚災害初動活動マニュアルの作成および見直しを行い、全教員に周知徹底を図る。	・教育相談係が担任会に参加し、情報の吸い上げを確実に進行。 ・諸活動を円滑に行えるように、分かりやすく作成する	・教育相談に関する支援シート、情報の吸い上げから情報共有まで仕組みとしてはできつつある。今後は、生徒に応じた支援の内容、在り方等を検討する必要がある。 ・激甚災害初動活動マニュアルの作成、見直しについては実施することができた。今後については、マニュアルに応じた訓練方法を検討していく。
第一学年	・思い遣りの心と感謝の気持ちを持ち、責任感と誇りを持つ生徒の育成 ・目の前のことに誠実に取り組み、今という時 間を大切に出来る生徒の育成	・人を思い遣り自ら行動する姿勢、感謝する気持ちやそれを言葉と態度と行動で表現する姿勢の大切さを様々な場面で繰り返し伝える。 ・今、目の前の出来事が大切であるということや様々な場面で繰り返し伝える。	・清掃活動、クラス活動(係の仕事)、学校行事への積極的な取組の中から主体性を育成する。明るい挨拶の奨励に努める。 ・様々な取り組みに対して目的・目標を明確化し、“今”できることを考え、行動させる。	・清掃活動において自ら考え自ら行動できる生徒が増えてきたが、改善の余地は大いにあり、そのような活動ができる場を今後増やしていきたい。学校行事においては数々のトラブルがあり、コミュニケーション能力育成の有効な機会になった。球技大会、学校祭、合唱大会を通して周りへの感謝の気持ちがいよいよ活動へとつながるということを実感できたのは大きかった。目の前のことにも今まで以上に誠実にそしてそのことが当たり前になるように指導していきたい。
第二学年	・前向きな学習態度、高い進路意識の育成 ・自己肯定感、自主性、大人としてのマナーの育成	・授業、補習、小テスト、課題などに能動的に取り組ませ、実力のつく学習による意識づけ。 ・新入試に向けた情報提供を行っている。 ・修学旅行などの行事を通して、リーダーの育成をめざし、周りへの気配りや視野の広さを育てていく。	・校内、校外の進路行事を通じて、学問の知識を深め、明確な進路希望を持たせ、それに向けて努力する姿勢を育てる。 ・日々の生活・学習を振り返り、それを次の学習へ生かす、学びの姿勢を育てる。 ・学校行事、部活動などで学校の中心となる自覚を持たせる。	・生徒の授業への取り組みはよく、具体的に指示されたことは意欲的にやり、成果も上がりつつあるが、それがなかなか主体的な深い学びに結びついていかない。日々の授業や補習をより工夫し、受験に立ち向かえる力と気持ちを養ってきたい。また大学や学部の情報もこまめに紹介し生徒のモチベーションを上げていきたい。 ・様々な行事を通して精神的成長がみられた。さらに学習、行動面でのリーダー的存在を育成し、来年度は最高学年としてふさわしい日々のふるまいを身につけさせ、学習や部活動、行事へも主体的に取り組ませていきたい。
第三学年	・自らの進路実現に向けて主体的な努力を続ける姿勢の育成 ・他者を思い遣り、感謝の心を持って行動できる生徒の育成	・受験校の研究と現状の学力把握により、強化ポイントを明確にする。 ・面接等を通じ、きめ細やかな声掛けをして生徒の向上心を後押しする。 ・多くの他者に支えられていることに気づかせ、思い遣りの心大切さを感じさせる	・自己の将来目標をしっかりと考え、進路実現に向けてひとり一人が頑張る姿勢を学年全体の雰囲気作りで努める。 ・自己本位な考えではなく、客観的視野に立つて行動できる社会人としての気質を意識させる。	・年間を通し、学習の習熟度別に多様な補習講座を開講し、各自に必要な学力の向上の場を提供した。休日にも講座を設け、自主学習用に図書館を開放する等、主体的学習を奨励し自ら学ぶ姿勢を応援した。部活動の引退とともに、早期から業後遅くまで努力を続ける姿勢は日に日に増したが、全体的にはややスタートが遅れた感があった。いかに「0学期から」を意識させるかが課題。 ・具体的に指示を受けたことは積極的に進めるが、自ら周囲を観察して主体的に行動する姿勢には不十分な面が目立った。「当たり前」と思われる基本的なことも細かく指導する必要がある。
総合評価	・「主体的・対話的な深い学び」を中心に部活動や校内行事を通して、生徒が「より良く生きる力」の育成に取り組むことができた。 ・新しい学習指導要領や大学入試改革に対応できるように、さらに一層の授業改善に努め、教科指導力の向上を図っていく。 ・学校の教育活動全般がより充実したものとできるように、校務の精選や業務の生産性向上をすすめ、教職員の良好なメンタルヘルスの保持することができた。			